

第6章 町にのこる古いもの

1 たてもの

会津本郷町がはじめて「ほんごう」という地名で呼ばれるようになったのは、1000年以上も前といわれています。その後^{あしなもりうじ}芦名盛氏が^{むかいはぐるさんじょう}向羽里山城を^{きず}築いたころは、古い^{たてもの}建物がたくさんありましたが、^{かさい}火災などにあってほとんど燃えてしまっているのです。

(1) ^{さくだ}左下り^{かんのんどう}観音堂

大門の西^{ちゅう}県道より約800メートルの山の中^{ふく}腹にあって、岩をきり^{つく}ひらいて造ったみごとな建物で高さ約14.5メートルもあります。

830^{てんちやう}（天長7）年^{とく}徳一大師が^い建てたといわれ、会津三十三^{べつ}観音の一つで別名「くびなし^{ぶんかさい}観音」とも呼ばれています。町の文化財の指定になっています。



左下り観音堂